

# 私の空間 + 家族の空間

最近は昔と違い、自分だけの空間というものが  
家族との空間よりも、とても存在が強いものになっています。  
それは、自分の部屋を与えられるようになり、  
家族と壁で離れた空間に居ることにより、  
家族との絆が少し薄れるようになってしまいました。  
私は自分の空間と家族の空間にあえて  
間仕切りを作らないほうが良いと思います。  
そこで私は壁を作らず一つの空間で、  
自分の空間と家族の空間を作り出すことにしました。

「いってくる。」

「まってよ、お兄ちゃん。」

「ほら二人とも落ち着いて行ってらっしゃい。」

兄妹と妻のやり取りを聞き、  
こんな普通の会話ができ無くなっていったのは、  
いつ頃からだったのだろうか。  
そんなことを、父は考えていた。

「この家に越してから子供が良く笑うようになったわね。」

「ははっ、そうだな。」

この家に住む前までは借家で、  
まさに現代の家というように、  
子供は個々に部屋があり、  
親のいるリビングに顔を出さずに自分の部屋にこもってしまう。  
悪い友達を連れてきては、  
夜な夜な遊んでいた。  
本来の目的とは違い個々の部屋で自分達だけの空間を作ってしまう、  
大切な家族との時間を忘れてしまい、  
家族の仲も離れていった。

子供が非行に走る定番の家だ。

そこで親は考えた。

そろそろお金にもすこしは余裕が出てきたから  
家族が一つになるような家を建てよう。

親は真剣に考えた。

一つの部屋にとっても大きい机を置いてその上で、  
ゲーム、読書、ネット、勉強、音楽、料理、テレビ、食事などを  
するようにした。

家族一人一人がその部屋で好きなことをして、  
いつでも家族のしていることが分かるようにして、  
家族といつも繋がるようにしたいと思った。

最初は「なんだ、この家、自分のスペースは寝るスペースだけかよ。」

「えープライバシーないじゃない。」

と文句を言っていた娘達も  
一ヶ月も経てばこの家にもなれた。

ある晴れた日の夕方・・・。

日に面したところで

お父さんが新聞を読みながら

爪を切っている。

お母さんは、カレーを熱心に作っていて

おいしそうな匂いが家中にただよっている。

子供たちは、

勉強をしたり、友達と楽しそうにしゃべったりと  
思い思いのことをしている。

みんな自分のやっていることに夢中だが、

壁がないこの家には家族がいつでもそばで

何かしているので、

壁に囲まれた部屋では感じることの出来ない

家族の暖かさを感じる事が出来る。

毎日夕飯が終わったら子供は学校であったこと、

仕事のことなどいろいろな話をする。

子供たちは眠くなると、

大きな机についている扉を開け半地下に降りて、そこで寝る。

その部屋には、寝るだけの部屋で狭くベッドしか置いてない。

だから自然に家族が1つの部屋に集まり、机がある部屋に行ってしまうのだ。  
自然に家族と繋がるようになる。

この家を建てたことにより、家族に絆が生まれ 家族が一つに繋がった。

家族の空間は、私の空間。

私の空間は、家族の空間。

その二つの空間こそが、

家族の宝物。